２０２０年4月15日

高野 文夫 NPO日本プレゼンテーション協会理事長

（5回シリーズ、その④）

気や感性について

１、リーダーには、人間性の豊かさや幅や包容力が要求されます。

人間的な豊かさが無いと人の上には立てない。いろいろな個性や価値観や考え方を持った部下をオリエン テーションして引き連れてゆくには、人間性の豊かさや幅や包容力が要求されます。

そういう大きな器を作る努力をしないと、本物のリーダーにはなれないでしょう。感性というのは、もともと包括の人生哲学、すなわち包容する力なのです。一方理性は逆で、分けて分断してゆく。客体化して細分化してしまうのです。

感性の働きは、喜怒哀楽を味わい尽くして生まれてくる、すなわち心の中に結晶してくるものなのです。その結晶体に照らし合わせて、相手の苦しみを我が苦しみとして受け止め、他人の喜びを我が喜びとして感じ取ることができるのです。

２、人間最大の危機はアイデンティティーの喪失

人間の本当の幸せはしたいことをすることだと思う、今の時代、したいことをするのに一番重要なのはお金です。だからたとえ苦しくとも好きでもない仕事をしてでもお金稼ぎをせねばならないし、収入の安定を考えてサラリーマンになったりするわけです。

したいことがあって初めて我々は自分の人生を生きると言えるのですが、いつの間にか、したいこと（目的）とそれを達成する（手段）との見分けがつかなくなってしまうのです。それが人生を暗いもの、味のないものにしてしまうのです。手段が目的になってしまうのです。

例えば、何の為に苦しい受験勉強に耐えて一流どころ の学校を狙ったり、国家試験にチャレンジし たり、一流企業に入れるように頑張るのでしょうか？それは幸せを掴みたいからですよね。会社で早く出世したい、自分のやりたいポストで自分の実力を発揮したい、大きな個室を与えられて、秘書をつけてもらい、

レクサスやプレジデントのような最高級の社用車で送り迎えしてもらいたい。そのようなポスト争奪競争を生きがいにしている人も否定はできません。なぜならば、それが会社が伸びてゆく大きな要素にもなっているからです。

ほとんどの人が、理性で考えて理想を持って、それに縛られ支配されて苦しい、つらい人生を生きています。しかし人間の本当の幸せはしたいことをすることだと思うのです。したいことができないのは不幸です。

したいことがあって初めて我々は自分の人生を楽しく生きれるのだと思う。人間存在の証明は、命の内から吹き出すもの、すなわちうずきこそ生の証明であると思うのです。

しかしここで重要なのは、理性ではない感性なんです。感性から湧きでる本音と実感なんですよね。これからは IT やロボット全盛期に入ってゆきますが、このような自分の本音を実感できる感性が重要視される時代と言えましょう。

つまり、自分の個性を思いっきり出しながら、社会に貢献して、周りから感謝されて生きる姿が自信のアイデンティティーを発揮した生き方だと思う。

この続きは2020年５月15日号にてお話ししましょう。